

その他の環境への取り組み

その他の環境への取り組みに関する基本的な考え方

当社グループは、気候変動対応および資源循環に加え、水資源、生物多様性、汚染防止、ならびに製品ライフサイクル全体での環境負荷低減を、事業の安定的な継続やサプライチェーンの健全性に影響を及ぼし得る重要な環境課題と位置付けています。

これらの課題について、国際的なガイドラインや評価手法も参照しながら、定量的な評価に基づく管理と継続的な改善に取り組んでいます。

水資源の管理

水ストレス分析と水リスク対応

当社グループは、水資源の保全を重要な経営課題のひとつと位置付け、持続可能な水資源管理に取り組んでいます。事業活動に伴う水使用や排水が地域の水資源に与える影響を踏まえ、水使用量の削減を通じた水資源負荷の低減を基本方針としています。

水リスクの把握・評価にあたっては、WRI(世界資源研究所)の水リスク評価ツール「Aquaduct」を活用し、国内外の事業所における水ストレス状況を分析しています。水資源制約は、生産計画や設備投資、BCPに影響を及ぼし得る経営上のリスクと認識し、高水ストレス地域(インドを含む)に所在する事業所から、優先的に対策を進めています。

特に水ストレスが高い地域に所在する事業所では、生産工程の改善や設備の効率化などを通じて水使用量の抑制に努めています。これらの取り組みについては、水使用原単位を用いて効果を継続的に確認しています。

主な対応例

- 生産工程における水使用量の削減
- 設備の効率化および排水処理の適正運用
- 水使用量削減に資する水の循環利用の推進(工程内での活用を含む)



水処理設備(NNMI・インド)
二層ろ過および逆浸透膜処理により、排水の再利用と水資源負荷の低減を推進

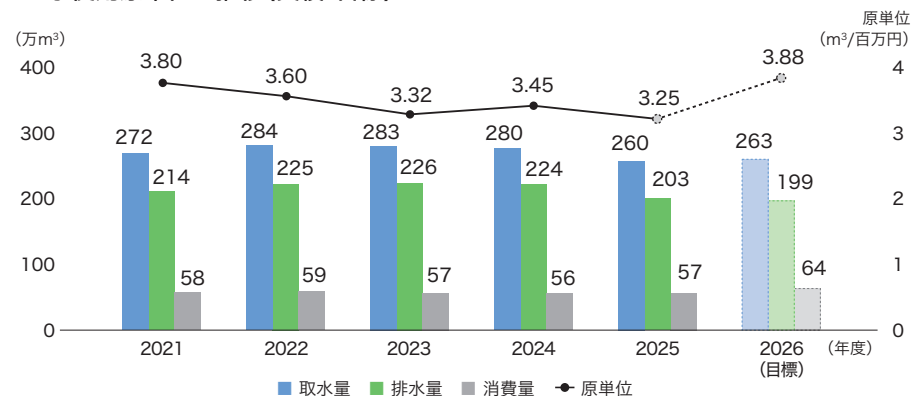
KPIおよび目標

当社グループは、水資源制約による操業リスクの低減を目的に、水資源管理におけるKPIとして水使用原単位を設定し、継続的な改善に取り組んでいます。

KPI(指標)

水使用原単位(水資源管理)

水使用原単位の推移(実績・目標)



- 水使用原単位は、社内管理上の価格指標を用いて算定した「生産高」を分母として算定し、事業計画や各拠点の水使用量削減施策を踏まえて、継続的な改善を目指す目標値を設定

※総水使用量および水使用原単位は、グループ連結ベースの対象拠点を範囲として算定
※本文の水使用原単位は、社内管理上の価格指標を用いて算定した「生産高」を分母として算定し、巻末のESGデータでは、外部比較可能性の観点から、「売上高」を分母として算定

その他の環境への取り組み

■ 生物多様性の保全

生物多様性リスク評価と対応

当社グループは、生物多様性の保全を重要な環境課題のひとつと位置付け、事業活動が生態系に与える影響の把握と低減に取り組んでいます。対応にあたっては、SBTs for Natureで示されたAR3Tフレームワーク(回避・低減・回復・変革)を基本的な考え方としています。

生物多様性リスクの評価には、WWF(世界自然保護基金)の生物多様性リスクフィルターを活用し、国内外の生産拠点を対象に評価を実施しました。その結果を踏まえ、事業活動に伴う影響が相対的に大きい拠点を特定し、対応の優先順位付けを行い、具体的な対応の検討を進めています。

また、評価結果を踏まえ、拠点ごとの地域特性に応じた保全活動を、順次進めています。

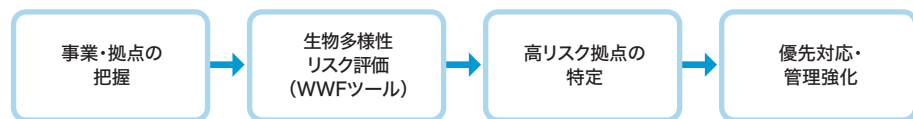
主な評価結果・対応の考え方

- 生態系への影響リスクの高い拠点を特定
- 排水や土地利用など事業活動に伴う影響の管理を強化
- 地域特性を踏まえた保全活動の検討



タイ拠点におけるマングローブ植樹活動(NMT)
沿岸生態系の保全に向けた取り組みの一例

今後は、TNFDの提言も参考にしながら、自然関連リスクおよび機会を段階的に経営判断に取り込み、生物多様性の保全と事業継続性の両立を目指します。



生物多様性リスク評価と対応プロセス

■ 製品ライフサイクル全体での環境負荷低減

ライフサイクル評価(LCA)

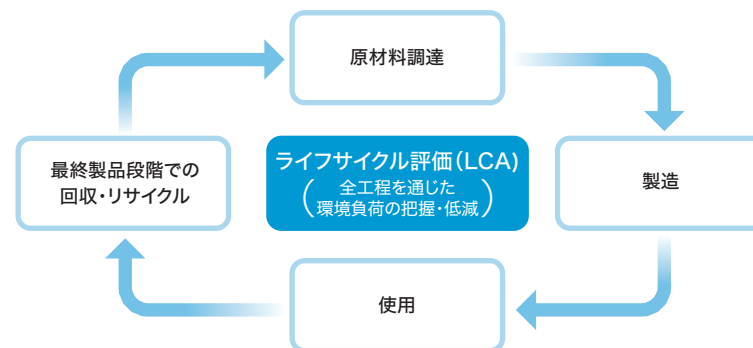
当社グループは、環境負荷は製品の製造段階だけでなく、原材料調達から使用、廃棄・再生に至るライフサイクル全体で発生すると認識しています。このため、LCA(ライフサイクル評価)を、製品開発や事業判断の基盤のひとつとして位置付けています。

LCAにより、環境負荷の大きい工程や改善余地を把握し、製品設計や製造プロセスの見直しにつなげています。特に、軸受やドライブシャフトの小型・軽量化、低フリクション化は、顧客の使用段階におけるエネルギー削減に貢献しています。

主な取り組み

- 製品設計段階での環境負荷低減の検討
- 軸受再生ビジネスによる製品寿命の延伸
- CO₂削減貢献量の把握

これらの取り組みを通じて、環境負荷低減と事業価値向上の両立を目指しています。



製品ライフサイクルを通じた環境負荷低減の考え方

WEBサイトの関連情報

詳細な取り組み内容については、当社のサステナビリティサイトをご参照ください。
具体的な事例やデータを含む情報を提供しています。

資源循環・汚染防止



生物多様性の保全

